

2024 年 1 月 23 日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

2023 年度日本PR大賞が決定！

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」
YOASOBI 氏

(音楽ユニット)

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
Paix²(ぺぺ) 氏

(「プリズンコンサート」で知られる女性歌手デュオ)

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：牧口征弘、所在地：東京都港区）はこのほど、2023 年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に音楽ユニットのYOASOBI 氏を、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」にプリズンコンサート（刑務所での音楽ライブ）の Paix²（ぺぺ）氏をそれぞれ選出・決定し、1 月 22 日（月）開催の「新春PRフォーラム 2024」において表彰式を行いました。



2023 年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」 YOASOBI 氏 (音楽ユニット)

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」としてパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には、持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループを対象に表彰するものです。

1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

両賞の選考・授賞理由は以下のとおりです。

<2023年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 YOASOBI 氏 （音楽ユニット）

■授賞理由

YouTubeの世界楽曲チャートで1位を獲得するなど、国を越えて老若男女にファンを増やしている。楽曲には原作となる小説があり、物語の世界観を拓けながら共感を得ていくコミュニケーションは、パブリックリレーションズに通じるものがある。また、出版事業の課題からスタートし、内外のステークホルダーを巻き込みながらプロジェクトとして大きな成果を上げていることや、メディアにおいても自らの考えを発信し、TikTokライブなど様々な手法を活用して双方向に関係を構築していることなど、パブリックリレーションズの基本を体現している点が高く評価された。

■受賞メッセージ

2023年度日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤーに選出いただき、ありがとうございます。我々は2人でYOASOBIというユニットをやっているのですけれども、発足時からチームのみんなの力を借りてようやく舞台に立つことが出来ていると思っております。

パブリックリレーションズという意味においては、本当にチームのみんなと作り上げてきていることばかりなので、そういったところを見ていただいて、今回の賞をいただけたのではないかと考えております。

ですので、この賞は僕らとチームのみんなに贈りたいと思います。

これからも頑張っていきますので、応援のほどよろしくお願いします！

※受賞メッセージ動画

<https://prsj.or.jp/personcitizen/2023comments/>

■YOASOBI氏プロフィール

<https://www.yoasobi-music.jp/profile>

<2023 年度 日本PR大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 Paix² (ペペ) (女性歌手デュオ)



■授賞理由

2000年にデビューした女性歌手デュオで、「受刑者のアイドル」と呼ばれている。2002年から刑務所を回って受刑者に歌を届け、眠っている良心を呼び覚ます活動を行っており、これまでに無報酬で行ってきた「プリズンコンサート」やトークセッションは500回を超える。社会復帰した元受刑者とも継続的につながりを持ってお互いの励みとし、刑務所関係者や自治体などと強い信頼関係のもとで連携するなど、パブリックリレーションズの理念に合致した活動を長年にわたって行っている点が高く評価された。

■受賞メッセージ

この度は、このような荣誉ある「2023年度 日本PR大賞」に、私たちの活動を評価して頂いて、とても感謝しています。

PR（パブリックリレーションズ）の真の意味を知り、「私たちがやってきたことの意味は、まさにこれだったんだ」と改めて学ぶことが出来ました。

Prisonコンサートと称して、これまで23年間、ボランティアで矯正施設（刑務所・少年院）のコンサートをさせて頂きました。

そのコンサート回数は、いつの間にか526回を数えることになり、今では社会復帰された人たちが、コンサートやライブ会場にたくさん来て下さいます。

「社会で頑張っている自分を見てほしくて来ました」
そんな姿を見るたびに、逆に私たちが励まされることが度々あります。
多くの方は矯正施設でのコンサートを「慰問」と表現されます。
しかし、私たちは決して「慰問」という言葉は使いません。その言葉には大きな違和感を感じます。
塀の中に人が居ると言うことは、社会には多くの被害者の方たちがいらっしゃる訳ですから決して「慰問」では無いのです。そして、私たちが一方的に与えることだけでなく、私たちがいただき、学ぶこともたくさんあるのです。
人はそれぞれ心のスイッチを持っています。
心のスイッチを押すことこそ私たち Paix²（ペペ）の活動の原点と考えています。
その心のスイッチを押すには、PR（パブリックリレーションズ）の中にある双方向の「信頼」がとても大切だと思います。
この度の受賞に恥じないように、これからも安全安心な社会作りのお手伝い出来るように研鑽を重ね、PR（パブリックリレーションズ）の理念を多くの人たちと共有できるよう心掛けながら邁進したいと思います。
今後とも応援よろしくお願い致します。
※受賞メッセージ（表彰式）動画 <https://prsj.or.jp/personcitizen/2023comments/>

■Paix2 氏 プロフィール

女性歌手デュオ。保護司。
Paix2 は、フランス語で「平和」の意味。二人なので二乗し Paix²（ペペ）と呼ぶ。
NHK 教育番組のテーマ曲や、社会を明るくする運動の応援メッセージソングを発表する等、多彩な活動が注目される。2002 年以降、矯正施設でメッセージコンサートを数多く行っているため、「受刑者のアイドル」と呼ばれる。著書には、NHK 教育番組のテーマ曲と同題「SAY っぱいをありがとう～塀の中から響く歌声」（実業之日本社）ほか。
※オフィシャルサイト <https://paix2.com/>

※日本PR大賞とは

日本PR大賞は、日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）の公益事業として、パブリックリレーションズの普及・浸透のために、「企業と社会の共生」、「公益の実現」などに貢献した人・組織を表彰する制度である。第1回は1998年度。

<ご参考>

■選考方法

日本パブリックリレーションズ協会会員および一般への公募により受賞候補者・団体の推薦を得て、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを作成し、協会会員および有識者・学識経験者で構成された選考委員会での協議を経て、顕彰委員会で決定。

※2023年度 選考委員会

- ・ PRSJ 会員 : 4名
- ・ 有識者 : 月刊「広報会議」編集長 浦野有代 氏
- ・ 学識経験者 : 日本広報学会 理事長 柴山慎一 氏

■推薦基準

- ◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」
経済、文化、スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最も活躍した人
- ◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPO等含む）

■ **パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者**（※肩書は受賞当時のもの）

令和5年度（2022年度）

羽生 結弦氏（プロスケーター）

令和4年度（2021年度）

根本 かおる氏（国連広報センター所長）

令和3年度（2020年度）

池江璃花子氏（競泳選手）

令和2年度（2019年度）

ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

平成30年度（2018年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成29年度（2017年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成28年度（2016年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成27年度（2015年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成26年度（2014年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成25年度（2013年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR推進部・パラリンピアン）

平成24年度（2012年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成23年度（2011年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成22年度（2010年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成21年度（2009年度）（この年までは「日本PR大賞」）

辻井 いつ子氏（ピアニスト 辻井 伸行氏の母親）

平成 20 年度 (2008 年度)

該当者なし

平成 19 年度 (2007 年度)

東国原 英夫氏 (宮崎県知事)

平成 18 年度 (2006 年度)

川島 隆太氏 (東北大学 加齢医学研究所教授)

平成 17 年度 (2005 年度)

野口 聡一氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士)

平成 16 年度 (2004 年度)

古田 敦也氏 (日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手)

特別賞 故 伴 信雄氏 (日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長)

平成 15 年度 (2003 年度)

北川 正恭氏 (早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事)

平成 14 年度 (2002 年度)

川淵 三郎氏 (前日本プロサッカーリーグ チェアマン)

特別賞 茂木 友三郎氏 (日本醤油協会会長、醤油PR協議会会長)

平成 13 年度 (2001 年度)

野口 健氏 (登山家)

平成 12 年度 (2000 年度)

柳井 正氏 (株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長)

平成 11 年度 (1999 年度)

乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏 (日産自動車株式会社 COO)

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏 (プロ野球選手 (西武ライオンズ))

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

特別賞 福川 伸次氏 (電通総研所長)

平成 10 年度 (1998 年度)

中坊 公平氏 (弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長)

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏 (株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長)

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI (元大関小錦・タレント)

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏（宇宙飛行士・医師）

特別賞 猪狩 誠也氏（東京経済大学 教授）

■シチズン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和5年度（2022年度）

内閣府承認 NPO 法人全国てらこやネットワーク

令和4年度（2021年度）

COVID-19 多言語支援プロジェクト

令和3年度（2020年度）

一般社団法人「ダイアログ・ジャパン・ソサエティ」

令和2年度（2019年度）

一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

平成29年度（2018年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成29年度（2017年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成28年度（2016年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成27年度（2015年度）

いすみ鉄道株式会社

平成26年度（2014年度）

NPO法人富岡製糸場を愛する会

平成25年度（2013年度）

NPO法人本屋大賞実行委員会

平成24年度（2012年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRS J）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147